

特定医療法人 南山会が《幸せ発表会》を初開催 職員 10 組が革新的な取り組みを発表、受賞者も決定

特定医療法人南山会（本社：山梨県南アルプス市、理事長：川崎 洋介、以下「当法人」）は、「その人らしさをともに創造する」をビジョンに掲げ、精神医療や認知症医療、介護・福祉サービスを提供しています。

2025 年 6 月 11 日、特定医療法人 南山会は法人内施設有朋館において《幸せ発表会》を開催しました。本発表会は、従来の目標管理制度を進化させ、職員の取り組みを共有し合う場としてリニューアルしたものです。今年度は 80 名ほどの職員が会場に集まり、10 組の発表者が業務改善や、より質の高い医療を提供するための取り組みを紹介しました。審査の結果、特に優れた取り組みに対して最優秀賞、創造賞、努力賞、業績賞が授与されました



■ 目標管理発表会から《幸せ発表会》へ 新しい取り組みの意義

南山会は、このたび目標管理の手法を従来の MBO（Management by Objectives）^{*1}から、当法人独自の「N-OKR（Nanzan Kai-Objective and Key Results）」^{*2}へと刷新し、それに伴い、これまで実施してきた「目標管理発表会」を「幸せ発表会」へと名称変更いたしました。

N-OKR とは、南山会が掲げるパーパス（存在意義）「医療と福祉と介護の力で、誰もが幸せだと思える世界を創造する」を実現するための目標と指標の枠組みです。このパーパスのもと、まず法人全体としての事業 N-OKR を設定し、そこから各部門・組織における N-OKR、さらに個々人の N-OKR へとブレイクダウンされていきます。こうした構造により、一人ひとりの目標の達成が組織の達成につながり、組織の達成が事業の前進へと繋がり、最終的には南山会が目指す「幸せ」の創造へと結実するという仕組みを構築しています。

従来の「目標管理発表会」では、数値目標や進捗状況の報告が中心でした。しかし、N-OKR の導入によって、私たち一人ひとりの仕事が「誰かの幸せ」につながっているという意識が、より明確になりました。そのため、成果の報告を単なる業績や評価にとどめるのではなく、「どのようにして、誰の幸せに貢献できたのか」を発表・共有し合う場として、「幸せ発表会」と名称を改めました。この「幸せ発表会」では、職員一人ひとりが自分の N-OKR に基づき、どのように社会に貢献し、どのようにして患者様・利用者様・地域の方々に笑顔を届けられたかを語り合い、称え合う文化の醸成を目指して

います。

- *1 MBO・・・明確な目標を設定し、それに向けて計画的に行動することで成果を上げる仕組み。各個人が達成すべき目標を定め、それに対する進捗を評価しながら改善を図る。比較的現実的で達成可能な目標を設定することが多い。
- *2 OKR・・・「目標 (Objective)」と、それを達成するための「主要な成果指標 (Key Results)」を明確に定め、成果を最大化することを目的とする。MBO が現実的で達成可能な目標を設定するのにに対し、OKR は挑戦的で革新的な目標を掲げることが多い。

■ 発表会当日の様子

発表会当日は法人内の各部署より 10 組、合計 13 名の職員が多彩なテーマの発表を行いました。

障害者支援施設「きがる館」職員の八木澤精神保健福祉士は Instagram を活用した、施設の認知度向上を目指す取り組みを行いました。ゼロから始めた Instagram でしたが、1 年間をかけて積極的に発信を続け、(6 月 11 日現在) 110 件のフォロワーを獲得し、施設を利用されている方々や普段お付き合いのある福祉・医療関係者のほか、地元企業など別の業種の方々ともつながりが持てたと言います。

そのほか、リハビリテーションセンターからは利用者送迎の仕組みを改良したことで、業務の効率化が図れたという報告や訪問看護ステーションからは ICT ツールやスマートフォンの機能を活用したことでスタッフ間の連携がスムーズに行えるようになったという報告などがありました。

■ 審査結果

審査の結果、特に優れた取り組みを発表した職員には以下の賞が授与されました。

- 最優秀賞：「行動制限最小化への取り組み 車椅子テーブルの使用について考える」
小堀さつき、堀内麻衣（認知症治療病棟（リスタート病棟））
- 業績賞：「病棟転換により業務を見直し改善することで患者に適切なケアの提供をする」
長沼美和（精神科療養病棟（クレル病棟））
「新規利用者数拡大のために院内外に向けてリハビリに関する発信やこれらの動きをとるための時間確保を行う」
清水悠司（リハビリテーションセンター）
「緊急対応に迅速な対応ができる」
石川純子（地域連携室）
- 創造賞：「持続可能な食事提供を目指して」
佐野里美（栄養グループ）
「SNS にて情報発信を行い、きがる館の新規利用者の獲得、1 日平均利用者数の増加を目指す」
八木澤ひかり（地域活動支援センターきがる館）
「相手の立場に立ち 見えること」
渡邊亜衣（認知症治療病棟（リスタート病棟））
- 努力賞：「多職種でグループの活動を行えるよう調整・活動の場を調整する」
浅野享子（OT・PT グループ）
「リハビリテーションセンターのパンフレットを作成し、院内外に周知し、リハビリテーションセンター新規利用者獲得を目指す」
森澤千恵、櫻井千恵（リハビリテーションセンター）
「手順書を作成する事で、利用者への関わり方を統一化し、訪問看護の質の維持を図る」
田原慎之介、村松奈々子（アルプス訪問看護ステーション）



■ 受賞の感想 最優秀賞 小堀さつきさん（認知症治療病棟（リスタート病棟）看護師）

今回最優秀賞に看護師の小堀さつきさんと堀内麻衣さんが選ばれました。お二人は、リスタート病棟内の拘束*3を減少させるために他の病棟職員の協力のもと、患者を丁寧に観察、評価して職員間でその情報を緊密に共有し、お一人お一人の転倒原因の究明と対策を立てました。また、一度の対策に留まらず、その後も観察、検討、対策の実行というPDCAサイクルを継続し続け、実際に拘束件数を大きく減少させました。拘束が減ったおかげで、患者の人としての尊厳を尊重できる環境が実現できただけでなく、患者の顔にも笑顔が増えたように感じると言います。

受賞されました看護師の小堀さつきさんに受賞の感想を聞きました。



「最初は私自身の感じた小さな疑問や想いからでしたが、それを他の職員も応援してくれて、みんなも患者さんの見守りや評価に協力してくれました。今回私が発表して受賞しましたが、本当にみんなの努力のおかげだと感じています。みんなも忙しい中で手伝ってくれて、それが報われたような想いがして、すごく嬉しかったです」

この取り組みを通して、達成感を感じた場面があれば教えてください。

「面会に来られたご家族から『入院前は車いすに乗っていたのに、歩けるようになったんですか！』と驚かれたり、喜ばれたりするのは、とても嬉しかったですね。他の職員たちも同じように感じてくれていたと思います。患者さんの活き活きとした表情が 増えたのも良かったです」

今後の展望や、ステップアップして「こんなことがしたい」というものがあれば教えてください。

「今回はリスタート病棟の中だけの取り組みでしたが、できれば病院内の他の病棟や隣接の老人保健施設などでも同じようなことが一緒にできたら良いなと思っています。たぶん他の病棟や施設には、それぞれの課題や難しさがあると思いますが、より良い方法をみんなで考えていけたらと思います」

*3 拘束・・・医療機関では、患者の身体の安全確保や円滑な治療を目的に専用の器具を用いた拘束を行うことが認められている。ただし、すべての拘束は患者の尊厳を尊重し、必要最小限の範囲で実施されるべきものであり、法令や医療倫理に則って慎重に判断され、医師の指示に基づいて行われる。

■ 理事長 川崎洋介のコメント



南山会では昨年度MBO（目標管理）からOKR（目標と指標）に変更し、パーパスである「幸せ」を目的に働いていけるようにしています。幸せ発表会では、すべてのOKRが「幸せ」を感じさせてくれる内容でした。法人の職員みんなが、患者さんや利用者さん、ご家族を幸せにしようという熱い想いに溢れていて、職員みんなが世界を幸せにしていってくれるということが実感できました。そんな素晴らしい職員たちだからこそ、職員みんなを幸せにすることが、私に課せられた使命であると改めて感じました。

■ 今後の活動、展望について

発表会の終盤には、理事長より職員の努力に対する総評が述べられ、今後のさらなる成長と法人全体の発展への期待が語られました。南山会では、今後も職員の成長を支援し、より良いサービスを提供するための取り組みを継続してまいります。

■ 会社概要

- 【社名】 特定医療法人南山会
- 【設立】 1957年7月2日
- 【代表】 理事長 川崎 洋介
- 【住所】 〒400-0405 山梨県南アルプス市下宮地 421

【事業内容】

精神科病院 峡西病院

障害者地域活動支援センター きがる館

訪問看護事業所 アルプス訪問看護ステーション

介護老人保健施設 峡西老人保健センター

就労継続支援 B 型事業所 アルプスファーム

【URL】 <https://www.nan-zan.or.jp/>

<お問い合わせ先>

特定医療法人南山会

TEL：055-282-2151（代表） 055-244-7715（直通） FAX：055-284-4886

担当：川口